

瀬戸中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 教材の提示の工夫や学び方の指導を通じた授業を実践する。
- 個に応じた指導を充実徹底し、自ら学ぶ態度を育てる授業を実践する。
- 学力の確実な定着に向けICT環境を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させる。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長
井原晴司	近藤 太 佐藤 浩 中川貴美子 佐川佳織 糸林和彦	近藤 太

【小中連携または中高連携における共通の取組】

協働的な学びを充実させるためのホワイトボードの活用やノートを使った振り返りの仕方について、統一したものを作成して取り組む。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○作業的な学習は、一生懸命取り組む生徒が多く、授業態度も真面目である。 ●単語や用語を覚えるのが苦手で、基礎的・基本的な知識を文章や他の教科での学習で関連づける点に課題がある。	・家庭学習の時間の確保や繰り返し学習することで、新しい知識と既習の知識と関連付け、活用することができる。 ・他の教科の学習や生活の場面において知識として活用することができる。	・タブレット端末を使用して調べたり、用語を説明する文章を考えたりする時間の確保をする。 ・教科の重要語句をしっかりと知識として定着させるため、繰り返し書いたり、ドリル学習に取り組みせたりして、評価する。	・タブレット端末を家庭学習に利用するための課題を出す。(各教科週1回以上) ・タブレット端末のミライシードを活用し、達成状況を確認していく。	・家庭学習の利用は教科によって、課題を出したり出していないかったり差があったが、トータルでは、2週間に1回の割合であった。 ・ミライシードの活用については、自習の形がとれなかった。引く続き、活用について考えていきたい。	・校内で教職員の連携を推進し、家庭学習での課題を、反転学習や事前の用語調べなどをさせるようにする。 ・ミライシードを活用する時間を、学級で確保するようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○教科書や辞書を使って調べたり、教師に質問しようとする生徒がいる。 ●短文で表現し伝えようとするので意見や考えが伝わりにくい生徒がいる。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・授業の学習内容の振り返りをし、学んだ内容を確認させ、わからないところは記録に残させる。 ・ICTの日常的な活用により、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を進める。	前期を継続していく。	授業の学習内容の振り返りには、テスト間には時間が取れた教科がほとんどだが、授業時数の確保と子どもの主体的な取り組みについて、ICTの活用も含め、これからも進めていきたい。	学習を振り返るための、学習方法を教師が提示し子どもの自主的な活動になるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業は自主的に準備をしている生徒が多い。 ●家庭での学習時間(特に休日)が少ない生徒が多い。 ●家庭学習ではゲームやスマホをする時間が長く自主的に取り組む生徒が少ない。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・朝読書の時間を活用し、夢や進路についての読み物を提示し、学習が自己実現につながっていくことを理解させる。 ・自主学習ノート及び学習テキストの活用をさらに進め、その日の振り返りができているか点検する。	・全ての生徒に学びの機会を保障するため、教師がチームズ、メタモジ等を活用し、家庭での使用を進めていく。 ・子どもたちが常時タブレット端末を使用することができるように、授業などでの使用回数を増やしていく。	・チームズやメタモジの活用は、教科の授業や全校集会などで活用できた。家庭での取り組みは、引き続き工夫が必要である。 ・タブレット端末を子ども自身が管理できるようになり、自分で学習での疑問点や内容の振り返りなどをするために、使用する回数は増えてきている。これからも教職員間の連携を取りながら進めていきたい。	タブレット端末の自主的な活用方針をわかりやすく具体的に子どもに提示する。

令和4年度 学力向上ロードマップ

